

「天理ぴ〜すぺ〜すプロジェクト」の取り組み ⑤

天理大学人間学部教授
渡辺 一城 Kazukuni Watanabe

「天理ぴ〜すぺ〜すプロジェクト」の結果

「天理ぴ〜すぺ〜すプロジェクト」の広報活動では、前号で記したもののほか、奈良県共同募金会事務局が、webサイトによる広報や関係者・団体などに対してダイレクトメールを送付して協力依頼を行ったほか、市内民生委員、自治会、店舗（美容室、旅行代理店、居酒屋等）などの協力によるポスター掲示やチラシ配布、天理大学内でのポスター掲示および大学広報誌などでの記事掲載、天理教関係行事や福祉関連会議等でのチラシ配布、facebookページの開設などが行われた。チラシは3つの参加団体全てで紹介されたチラシと、参加団体ごとに専用につくられたチラシの2種が作成された。

募金活動は、主として、①各参加団体がチラシを活用しながら関係者などを訪問あるいはダイレクトメールを送付して依頼する方法、②街頭募金による方法、③奈良県共同募金会事務局が県内関係者あてにチラシを同封したダイレクトメールを送付して依頼する方法、④その他イベントなどの機会に呼びかける方法、などにより行われた。募金活動の結果をまとめた資料によれば、団体を選択（指定）した寄付金が各参加団体それぞれ約300,000円、指定なしの寄付金を含めて、合計1,058,478円もの寄付金が寄せられた。各団体ともほぼ同じくらいの寄付金を集めたわけだが、興味深いのは、上記した募金方法別では団体ごとに違いが出たことである。3つの参加団体の中には、②の街頭募金活動に力を入れ募金額に占める街頭募金の割合が多い団体もあれば、①の方法による募金額が多い団体もあった。③の方法でも、3つの団体間に募金額の違いが出ている。①の方法での募金額が多かった団体はそれだけ当該団体の活動を支援しようという関係者間のネットワーク力が大きかったことの証左であるし、③の方法で多くの寄付を集めた団体はそれだけ社会課題解決の訴求力が高かったといえよう。それぞれの参加団体が有する特性や潜在力、いわば「強み」が改めて把握された結果と考えることができる。自団体の「強み」の把握は、非営利組織がファンドレイジング（資金調達）を実施する上でも重要な要素とされている。こうして寄せられた寄付金は、寄付者の選択（指定）に基づいた金額と奈良県共同募金会からのマッチングギフト（一定額の上乗せ）を加えて、2014年春に各参加団体に助成金が交付された。

「奈良県ぴ〜すぺ〜すプロジェクト」へ

2014年度からは、天理市から奈良県全域へと地域範囲を拡大し、名称も「奈良県ぴ〜すぺ〜すプロジェクト」と改めて実施された。

2014年度の参加団体として、前年度に引き続いて「ゆっく〜り・ほっこりできる居場所『桑サロン』の充実」を掲げた天理こころの会（精神障害者家族会・天理市）、「里親家庭や児童養護施設を巣立った後の自立支援『アフターケア相談所』の充実」を掲げた特定非営利活動法人おかえり（天理市）がエントリーしたことに加え、「高齢者の居場所づくり『ゆうぎぎマルシェ』の実現」を掲げた特定非営利活動法人ミルクならネットワーク（川西町）、「第4回おしごと体験フェスティバルの開催及び空手道場の充実」を掲げた子育て支援プロジェクト（生駒市）、「高

齢者のためのまちかどデイハウスの充実」を掲げた特定非営利活動法人この指とまれ21（奈良市）、「障害の重い人々の18歳からの『日中の居場所』『交流の場』づくりの充実」を掲げた特定非営利活動法人きららの木（奈良市）、の4団体が新たに加わり、計6団体の参加で実施された。いずれも高齢者あるいは障害者、児童の「居場所づくり」を実践しようとする団体であり、寄付者の選択肢も広がった。実際には2015年1月から3月にかけて、毎月26日の天理駅前での街頭募金活動を含めて様々な募金活動が展開され、その結果1,048,408円の寄付が寄せられた。



「ぴ〜すぺ〜すプロジェクト」の成果

これまでの2カ年にわたる「ぴ〜すぺ〜すプロジェクト」で、テーマとして掲げた「居場所づくり」は実現できたのか、ネットワーク（仲間づくり）は広がったのかなどについて、現段階では必ずしも十分な成果を出すには至っていない。ただ、情報発信の重要性も含めて参加団体のファンドレイジング意識を高めたことは確かであろう。前号で述べたように、これまで我が国の非営利組織はファンドレイジングを必ずしも積極的に展開してこなかった。しかし近年、寄付が注目され社会参加の一形態として見直されはじめ、社会的活動を行う非営利組織がそのミッションを掲げて情報やメッセージを発信し、共感を得ながら寄付を募ることが当該組織にとっても社会にとっても意義ある行為であるという認識が高まってきた。しかし、ある意味保守的な奈良の県民性のようなものが背景にあるのか、県内の非営利組織にこうした認識が広まっているとはいえない。こうした状況のもと共同募金会が「ぴ〜すぺ〜すプロジェクト」というファンドレイジングを展開するための舞台を準備し、これが参加団体による情報発信の機会として機能したことは参加団体対象のアンケート結果からも明らかとなっている。

2015年度の「奈良県ぴ〜すぺ〜すプロジェクト」には、一昨年度昨年度に引き続いて特定非営利活動法人おかえり、昨年度に引き続いて子育て支援プロジェクトがエントリーしたことに加え、「認知症カフェ（ココロカフェ）の充実」を掲げた特別養護老人ホーム田原本園（田原本町）、「地域の人々が気軽に集えるみんなの茶の間“ゆとり”の充実」を掲げる楽しい茶の間「ゆとり」（河合町）、「発達障害、ひきこもり、不登校の子ども・若者の居場所「RENKA」の充実」を掲げる一般社団法人リージョナルネット（葛城市）が新たに参加、計5団体が、奈良県共同募金会および「奈良県ぴ〜すぺ〜すプロジェクト」実行委員会とともに、2016年1月から募金活動を実施することになっている。さらなるファンドレイジング意識の醸成と、団体間のネットワーク化を期待したい。